

神奈川県立瀬谷支援学校 学校運営協議会 開催結果

本校の学校運営協議会を下記のとおり開催しました。

会議名称	令和7年度 瀬谷支援学校 第3回 学校運営協議会
開催日時	令和8年3月11日(水) 14:30~16:30
開催場所	瀬谷支援学校 G棟
出席者	瀬谷支援学校 学校運営協議会委員8名(本校校長1名を含む) 瀬谷支援学校 学校運営協議会事務局教職員13名
会議資料	・各学部・各グループの重点課題の取組状況 ・プレゼンテーション資料
議事録	<p>1 開会および校長挨拶 東日本大震災から15年にあたるため、犠牲者への哀悼の意を表して黙とうを実施した。校長から「震災の教訓を安全・安心の教育活動に生かすことが私たちの責務」との発言があった。続いて、3月12日に高等部卒業式が予定されており、生徒一人ひとりが自分らしい豊かな生活を築き、社会で活躍することへの期待が述べられた。さらに、本日の協議が次年度の教育活動と安全・安心の体制づくりにつながるよう努めるとの発言があった。</p> <p>2 会長挨拶 15年前の震災発生時、校長として対応した。中学部のスクールバスは発車待機中であり、余震で校内が混乱する中、情報不足が深刻な課題であった。FM大和やバイク通勤の教員による情報収集により、「スクールバスでは移動できず保護者の迎えが必要」と判断された。学校に残った220名の児童・生徒は落ち着いて行動し、教員が不安を抱える子どもに対応した。栄養士が迅速に食事を準備して、落ち着きを得た。藤沢方面の保護者迎えの困難や分教室の生徒搬送の事例を含め、教員が対応に尽力した。「想定外は必ず起こる」「判断力と行動力が重要」であり、学校の責務として、安心・安全を提供する環境づくりへの継続的な取組が強調され、より安全な学校を目指す決意が述べられた。</p> <p>3 令和7年度学校評価報告書、学校評価アンケート結果について 令和7年度学校評価報告書について、1年間取り組み、達成状況・課題・改善の方策をまとめた。詳しい内容については各グループのリーダーから説明があるため、意見をいただきたい旨説明があった。</p> <p>■ 学校評価アンケート(保護者)について 「そう思う」「ほぼそう思う」の合計が80%に満たない設問が複数あった。 1番:59%・3番:47%・7番:79%・9番:69%・10番:76%・11番:58%・12番:64% 「わからない」の回答が多く見られた。広報誌などでも日頃から情報発信し、理解促進を図っていきたい。</p> <p>■ 学校評価アンケート(教員) 「そう思う」「ほぼそう思う」の合計が80%に満たない設問が複数あった。 1番:66%・3番:71%・4番:77%・5番:67%・7番:73%・9番:65%・10番:79%・11番:67%・12番:63% 自由記述では、教員不足・勤務負担・校舎の老朽化・業務量の増加などが多く挙げられた。 共通理解や情報共有の課題が見られ、取組の伝達不足・取組自体の不十分さが課題である。</p> <p>4 各学部・各グループ年間評価について ■ 小学部は、年5回のミニ情報研修会を通じてICT機器の活用方法を共有し、タッチ式音声バーコード機器を活用した代理コミュニケーションや、電子黒板とiPadのミラーリングによる出席確認・スケジュール提示を実践した。さらに、Copilot利用によるAI活用方法(文章・絵カード作成)が紹介された。また、心理的安定と環境把握の重要性を自立活動の視点から研究授業やケース会で共有したことについて報告があった。来年度は個別最適な支援に重点を置いて取り組む予定であることが示された。 ■ 中学部は、作業・バザーでエコたわしや祝箸、ロゴ入りクッション、レジン製品を販売し、保護者から高評価を得た。食育では味噌づくりやホットケーキづくりを実施し、AI学習と組み合わせることで活動を拡充したことについて報告があった。学習発表会でAI作曲の音楽を使用するなど、活用の幅が広がっている。 ■ 高等部は、今年度はアセスメントの実施時期が遅れたため、個別教育計画への反映が困難となった。来年度は1年生を対象に4~5月でアセスメントを実施し支援策を検討する計画であり、専門職と連携してアセスメント結果を基にした支援体制を整備する予定である。 ■ 大和東分教室は、教科ごとの情報交換を通じて学習内容の共通理解を進め、選択授業や放課後の活動で3年生3名がMOS・日商・サーティファイ資格に合格した。生徒の関心がSNSから実務スキルへ広がる傾向が見られ、進路指導ではWeb入力やメール送付など生活に必要なICT技能を強化している。1年生の学校アセスメントへの参加を検討しており、地域の高校や公園、センターでの職業活動が生徒の意欲向上に寄与しているとの報告があった。 ■ 大和南分教室は、アプリを活用した作曲活動が人気を集める中、Excel・Word・PowerPointの操作学習を継続し、生徒会では学校紹介動画を制作した。大和南高校との交流が進み、球技大会(ポッチャ)や来年度の体育祭参加が検討されている。また、進路に向けた自己理解の学習を継続的に取り組んでいるとの報告があった。 ■ 教育課程グループは、カリキュラムチーム・教務チームともに目標を達成したこと、生徒の不安軽減、教科間連携を意識した丁寧な取組を実施した。また、来年度導入の統合型校務支援システムの運用に向けた準備をしていることについて報告があった。</p>

■ 連携支援グループは、巡回相談を今年度64回実施し、支援級だけでなく通常級からの依頼に対応した。所持品管理や学習困難など多様なニーズに取り組んだことの報告があった。交流フェスティバルについて、部会制導入で地域の意見を反映。集客・評価が向上し、次年度の課題は地域側との役割分担の明確化であるとの報告があった。進路支援では、グループホーム講演会や企業講話、外部講師授業を充実させたこと、特例子会社卒業生の講話が生徒の意欲向上につながったことについて報告があった。

■ 教育推進グループは、保健・給食・スクールバスの各チームは大きな問題なく運営できた。校内研究のテーマ「主体的な活動を引き出す授業づくり」のもと、体育や分教室での作業学習の実践が共有され、指導主事から具体的な助言を受けたとの報告があった。

■ 総務管理グループは、消火器・消火栓訓練、水害訓練、避難経路遮断時の訓練を実施し、境川氾濫のリスクを踏まえた校舎内での垂直避難の重要性を確認した。また広い学校での情報伝達手段の確保が課題であり、4月以降は避難プログラムのさらなる精度向上を図る方針であることが示された。

5 質疑・応答・熟議

ICT整備により教育活動が充実している一方、過度利用のリスクや家庭での使用の課題が指摘された。小学部では画面制限やフィルタリングを徹底し、ルールに基づく運用が行われている。中学部・高等部では卒業後の生活に必要な「ICTの使い方」を指導している。SNS安全指導や詐欺防止教育は外部講師と協力して継続中である。進路指導では、生徒の自己理解を深め「納得できる進路選択」を支援している。地区センター活動から、多様な生き方や適性に気づく機会の重要性が共有された。企業就労においては自力通勤が不可欠であり、学校と家庭で協力して練習を進めている。アセスメントの定着課題や成功例共有が提起され、できない部分だけを基準にしない配慮が求められた。

6 有識者評価、今年度の評価総括

■ 育てたい子ども像について

教育課程の根底には、「将来、自立して生活できる子を育てたい」という共通の目標がある。自己理解が進むにつれ、「自分がどう社会と関わるのか」を意識し始める。その過程を学校として丁寧に支えることが大切である。

■ 情報共有の重要性

情報共有の在り方、特に「環境をどう整えるか」は非常に重要である。家庭・地域・学校の3者が共通理解を持って支え合える環境づくりが欠かせない。

■ ICT活用について

電子黒板も導入され、ICT環境は大きく前進している。しかし、「使っている」と「使いこなしている」ことは違う。便利さだけに頼ると本質が見えなくなる可能性がある。まずは試してみる姿勢を大切にしつつ、しっかりと使い方を見極めていくことが重要である。

■ アセスメントの捉え方

アセスメントは、教師の価値観の揺らぎを防ぐためにも必要な共通指針である。しかし、アセスメントが「できない部分」だけを強調してしまう危険性もある。苦手の克服ばかりに焦点を当てると、子どもが苦しむ可能性がある。一方で、得意な部分を伸ばすことで全体の成長につながることも多い。アセスメントは、そのバランスを見るためのツールとして活用できるとよい。

■ 社会参加と働き方の多様性

現代は働き方の選択肢が非常に多い。校外学習や実習では、生徒が自分の得意・不得意に気づける場面も増えている。友達との関わりを通して、自分のペースで成長していける環境づくりが重要である。

■ 技術の進歩と学び続ける力

これからの社会はテクノロジーの進歩がさらに加速し、「学校で学んだことだけで一生働く」時代ではなくなる。急な変化が苦手な人も多いが、その分「集団で支え合う力」がこれまで以上に必要になる。

■ 地域との連携について

この地域は本当に学校を支援している。開発等により地域の姿が変わる可能性もあるが、関係性を保ちつつ、より良い連携を続けていくことが大切である。

■ 学校施設・環境について

教員のアンケートでも『校舎が古い』という声が多いが、敷地が広く、環境としては非常に恵まれている。水害へのリスクはゼロではないが、護岸工事の進展により、当時と比べて状況は改善している。引き続き注意をしながら環境整備を進めていく必要がある。

7 校長閉会挨拶

■ 育てたい子ども像について

第1回学校運営協議会で『学校が目指す姿』『子ども像』を示した。しかし、教員と議論する中で、「それは“教員の視点”だけになっていないか」「子ども本人はどう感じているのか」「保護者はどのように見ているのか」「行政(市)は支援学校に何を求めているのか」といった多様な視点を踏まえる必要があると感じた。すべてを取り込むことは難しいが、さまざまな視点を統合し、学校としての方針に落とし込んでいくことが重要である。その点を整理したうえで改めてお示しできるよう準備していきたい。

■ 働き方改革について

働き方改革は学校現場にも強く求められている。紙と電子の併用で行ってきた人事評価や研修関係の書類は電子に一本化されつつある。職員室や校長室のシステム環境の改善を進めている。「システムを理解するまで時間がかかる」「マニュアルを読まなければならない」「操作の習熟が追いつかない」といった現実的な課題がある。

■ 学校環境・施設面について

職員アンケートでは『校舎が古く不便』という声が多く寄せられた。一方で、本校は敷地が広く、地域行事にも活用しやすい強みがある。実際に、交流フェスティバルや区民マラソン大会の会場としても使用されている。学校が地域に開かれる場になりつつあることを前向きに受け止め、地域との交流を深めていきたいと考えている。

■ まとめ

児童生徒が増え、教職員も増えていく中で、学校としてより良い方向に進むためには、委員の力添えが不可欠である。本日いただいた貴重なご意見は、次年度の学校運営に生かしていきたい。